

# 年頭のごあいさつ

錦江町長 野元 良一



明けましておめでとうございます。

皆様には、ご家族お揃いで新年を迎えられたことと思います。心からお祝い申し上げます。

錦江町が誕生し、1年9か月余が経過いたしました。その間順調に推移していることは町民の皆様方の温かいご理解とご協力の賜物だと厚く感謝申し上げます。

我が国の社会経済情勢は、景気拡大期間が戦後最長だった「いざなぎ景気」を越えたと言われておりますが、我々地方にとりましては、その実感なき景気回復だと思えます。また、国連統計上の豊かさでは世界一と報道されているのは裏腹に、国の財政難のもと地方自治体をはじめ国民に負担が重くのしかかる社会構造に成りつつあり、不透明な時代となっていくような気がしてなりません。

このような時代の大きな転換

期の中で、地方自治体を取り巻く環境も大きく変化してきており、平成12年4月1日「地方分権一括法」が施行されたことを期に、地方に出来ることは地方で決定し（自己決定、その責任も地方で負う「自己責任」という地方自治の姿を確立していくことが強く求められています。

加えて、地方交付税や補助金等の削減等をはじめとする地方財政制度の見直しにより、自治体の歳入は毎年削減されていることから、これまで国や県に依存してきた体制を見直し、自立した町づくりを進めていくことが求められています。よって、本町においては、行政改革に職員が一体となり取り組み、厳しい時代に対応する自立した町づくりに努めているところでです。

新生錦江町は、「あふれる自然・こころ豊かな町」を新町建設の理念としています。この新町建設の理念が着実に息吹を感じるところになって来たことと認識しているところでです。

これも町民の皆様方の温かい、ご理解の賜物だと重ねて感謝を申し上げます。

我が町は、「農林・水産・商工業の発展なくして町の発展なし」と言われているように、今後さらに経営の維持拡大につな

がるような、基盤整備に取り組んで参る所存です。

このような中、昨年は農林水産物の価格の低迷、天候不良による不作、原油高騰によるコスト高、また、葉タバコ作については、十年來の不作とたいへん厳しい年でした。

今、食に対する安心・安全のニーズが高まりつつある中、今後さらに食の、安心・安全の付加価値を高めるために、取り組んで参る所存です。

よって、私がいつも申しておりますとおり、錦江町の生産物に安心・安全の付加価値を高めるためのシステムを構築し、日本一安心・安全なものづくりをめざしていきたいと考えています。

そして、日本一安心・安全なものづくりが出来ようになったら、日本一高く販売出来るようなシステムを考えていきたいと思えます。

日本一高く売れるようになりましたら、その中から、基金造成をお願いし、高齢者が、楽しい余生を送れるような町にしたいと考えているところでです。

そのための情報発信の場として、物産館「にしきの里」を建設し、錦江町の情報を発信し、全国に誇れる農業の町を目指し

ているところでです。

売り上げ目標9千万円が、関係者のご尽力によりまして8か月で目標を達成できました。また、いろいろな情報が入手出来るようになりましたので、これらの情報を有効活用し、町の活性化に生かして参りたいと思えます。

県営土地改良総合整備基盤事業として取り組んで参りました大根占水田のパイプライン導入事業につきましては、平成18年度で事業を完了します。

林業につきましては、外材の価格が上昇していること、また、国内の木材業者が国内産へ大きくシフトして来ていることなどから、今後情勢が好転していくものと期待しているところでです。

また、引き続き公益的、多目的機能を高める除間伐推進と、特用林産物の推進に努めて参ります。

漁業につきましては、作り育てる漁業を主体に引き続き漁礁設置事業を導入し、その効果に期待しているところでです。

商工業につきましては、大型店の進出に加え、24時間営業という商法により地元商店は沈滞化の状態が続いております。

よって、営林署跡地を商業用地として活用し活性化を図るた